

令和5年度 [果実の概況]

本年の果実は、記録的な高温と、干ばつの影響を受け出荷量の少ない品目が目立ちます。
 みかん、りんご等、10～11月の産地の高温の影響もあり、着色の遅れが見られますが、年末に向けて出荷も回復に向かう見通しです。
 輸入果実は輸送の不安定要素に加え、円安の影響を受け昨年同様入荷減の単価高での推移となります。
 行動制限も解除になり、業務需要の回復に加えインバウンド需要、贈答需要、家庭での需要に期待しています。

果実概況担当 丸果旭川青果卸売市場 取締役 和田 明 (果実部直通48-3232・3233)

主品目	主力産地	前年対比		市況予想 (Kg 単価)	概況
		入荷量	市況		
みかん	愛媛、静岡、和歌山、熊本	やや減	並	400～300	年末に向けて出荷量回復、価格前年並みの予想です。
りんご	青森、岩手	減	高い	650～400	夏場の高温の影響を受け出荷量減少、単価高の見通しです。
いちご	茨城、宮城、福岡	減	高い	3000～2000	年末需要に向けて出荷量増えるが、前年より少なく、単価高の見通し
干柿	長野、和歌山、山形、福島	やや減	やや高い	3000～2500	平年より生産量はやや少なく、やや高めの見通しです。
キウイ	和歌山、愛媛、ニュージー	並	並	600～500	国産中心の販売。出荷量前年並み、価格も平年並み。
バナナ	フィリピン、エクアドル	並	並	300～150	入荷は前年並み、価格も前年並みの見通しです。
パイナップル	フィリピン	並	並	240～200	クリスマスに向けて入荷量増量、価格は前年並み予想です。
グレープフルーツ	フロリダ、メキシコ	減	高い	600～400	入荷不安定で少ない状況、単価は高い。
オレンジ	オーストラリア	減	やや高い	400～350	輸送の関係で入荷量減の単価高傾向。